

植物にしかお目見えできないために、ヘソ曲り(?)3名は途中で旧道を通る事にした。しかし旧道は大変な道で、道らしい道は炭焼き小屋迄、そこから頂上迄約100mは道らしきものもなく、かすかに見える展望台の屋根を目標に盲滅法に灌木の上を泳ぐように、時には地をはいながらのぼる。この道は誰にもすすめられないコース(?)である。頂上に着いたのは新道をのぼつた人よりもわずか30分程早かつただけで、エネルギーの消耗は倍以上である。頂上に着くと同時に下着一枚になつて石板の上にねころぶのがせい一杯の仕事であつた。しばらくは昼飯をとる元気もなく、にぎり飯も2つ目迄はその味も判らずただ機械的に口に運ぶだけであつた。唯一つの取りえは途中で清水にありつけた事ぐらいであつた。頂上迄の採集品は次のようなものである

ボタンズル、センニンソウ、オグルマ、タンドボロギク、ヤマニガナ、コウヤボウキ、ヤクシソウ、サジガンクビソウ、クサイチゴ、ニガイチゴ、カマツカ、オオウラジロノキ、ヤマイバラアカガシ、スダシイ、アラカシ、コナラ、シラカシ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキ、オトコヘシ、コウゾ、カジノキ、カラスザンショウ、マツカゼソウ、ウラジロ、ホナガクマヤナギ、ツクバネウツギ、ニワトコ、サイコクミツバツツジ、アセビ、シャシャンボ、コバノミツバツツジ、ホツツジ、ネジキ、リヨウブ、ムクノキ、ソヨゴ、ツリバナ、オオバイノモトソウ、マメヅタ、ホソバカナワラビ、ミヅシダ、オニカナワラビ、ジャケツイバラ、イチヤクソウ、イカリソウ、ダンコウバイ、シロダモ、ヤマコウバシ、ヒサカキ、サカキ、コアジサイ、サワアジサイ、モミジドコロ、アワブキ、ゴンズイ、ガンピ、アカシデ、イヌシデ、ヤマモモ、ヒキヨモギ、ツクバネ、サンカクスル、ノブドウ、ニガクサ、カワミドリ、トモエソウ、マツブサ、シキミ、ニガキトゲソバ、マツグミ、

頂上に全員着いたのは12時頃、若狭湾を左手に、三方五湖を右手に眺めながらの昼飯は、暑い日射を展望台の屋根でさえぎり、又格別のものである。下山も大半は新道を下つたが、4名は全員の水筒を肩に再び灌木を泳ぎながら清水のところにたどりつく。しかし新道の方を下つた人達の方が早く下に着いた事はいう迄もない。梅丈山は新道を登れば、日をあびながら長い道をだらだらと、旧道は急な坂にあごを出しながら、どちらにしても楽な山ではなかつた。

(竹内民雄 記)

吉峰寺、大仏寺山採集記

9月23日秋分の日を利用しての採集会、参加者は約15名、越前竹原で下車、吉峰寺に向う途中田あり畑あり、又湿地ありと変化のある植相に中、高校生諸君は大変喜こんだ。ただ吉峰寺迄がやや遠く時間的に気をもませた。以下採集品は次のようである。

ケムラサキ、ハナタデ、イヌタデ、ミズヒキグサ、アキノウナギツカミ、ミヅソバ、ハナタデ、ムカゴイラクサ、カラムシ、クマノミズキ、ヤマボウシ、ツリフネソウ、チヂミザサ、ヌカキビ、トダシバ、アブラススキ、ヌメリグサ、スズメノヒエ、トウササクサ、チヂミザサ、キンエ

(採)

ノコロ、ササガヤ、コブナグサ、イヌビエ、ケイヌビエ、チカラシバ、カゼクサ、エノコログサ、スズメウリ、カラスウリ、セントウソウ、ノダケ、シャク、フユイチゴ、カマツカ、ヤマブキ、ヘビイチゴ、イノデ、ヤマイヌワラビ、ベニシダ、ヒメワラビ、ヤブソテツ、ヒメシダ、サトメシダ、ハグロソウ、ヤブマメ、クララ、ヤハズソウ、ツユクサ、イボクサ、ツルボ、シオデ、ハエドクソウ、ヤマボクチ、タンドボロギク、コメナモミ、ユウガギク、オオニガナ、ヨメナ、アキノノゲシ、ニガナ、ヒメジソ、ハシカグサ、ヘクソカズラ、ヒメクグ、チヤガヤツリ、ヤマイ、テンツキ、カワラスガナ、ホシクサ、アゼトウガラシ、ツクバネ、アワブキ、アオハダ、コアジサイ、ツノハシバミ。

さて吉峰寺の部落につき、寺迄はつづら折り道を登り、住職よりお茶をいただき一息入れる。寺の裏側より尾根伝いに、これから約13.3kmで永平寺であるが、この道は某会社のハイキングコースとして宣伝してはあるが、女・子供には少し無理なコースである。寺より西見晴台(大仏寺山頂上海抜約807m)迄は全く尾根伝いに上つたり下りたり、しかも所々道さえ不明な所がある。植相も又陽地植物ばかりが続く。しかし西見晴台から永平寺迄のコースには陰地植物もでてきて、植種もにぎやかになつてきた。以下、寺から大仏寺山頂迄と、ここから永平寺迄とに分けて採集品を記すと次のようである。

吉峰寺 — 大仏寺山頂上

コバノガマズミ、ミヤマシグレ、ガマズミ、マタタビ、シロヤマギク、モミジハグマ、クルマバハグマ、リヨウブ、コハウチワカエデ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ウリカエデ、ヤマモミヂ、ザイフリボク、ナンキンナナカマド、ウラジロノキ、ソヨゴ、マルバマンサク、エゾユズリハ、ナツハゼ、ウスギヨウラク、ネジキ、サイコクミツバツツジ、ホツツジ、カリヤス、ササガヤ、クロモジ、タムシバ、ホウノキ、コバノトネリコ、ブナノキ、イワウチワ、

頂上 — 永平寺

ヒメモチ、ナライシダ、オシダ、ジユウモンシシダ、シケシダ、ヤワラシダ、サカゲ、オオヒメワラビ、ハクモウイノデ、クサソテツ、ヤマイヌワラビ、ミヤマベニシダ、サトメシダ、ミヤマニガイチゴ、マルバフユイチゴ、ノイバラ、ナツツバキ、テツカエデ、チドリノキ、オオバクロモジ、スノキ、アクシバ、ウリノキ、ミヤマホウソ、アキギリ、サンインヒキオコシ、カワミドリ、サラシナショウマ、トリカブト、ミヤマカタバミ、ヤブデマリ、ツリフネソウ、キツリフネ、ウツギ、ウワバミソウ、イスアワ、ネズミガヤ、サワグルミ、ゴマナ、ユウガギク、シロヨメナ、ウバユリ、ツルボ、ナベナ、ヤマホロシ、ハクウンボク、エゴノキ、

永平寺に着いた時には時計は6時30分頃を示めし、距離の割には案外時間を費やした採集会になつた。この理由は植物そのものにあつたのではなく、むしろコースにあつたといえるのではないかろうか。

(竹内民雄 記)